

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.10 平成20(2008)年10月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



Contents

豊田講堂の今 Toyoda Auditorium, Now	1
同窓会ニュース NUAL News	5



大学ニュース Nagoya University News	15
事務局からのお知らせ From the NUAL Office	16

(上) 豊田講堂全景 (平成20年度入学式)
(左下) 豊田講堂とシンポジオンをつなぐロワイエ
(右下) 平成20年度入学式全景

特集 豊田講堂の今 Toyoda Auditorium, Now

1960年(昭和35年)に建設された豊田講堂の大規模改修が2006年12月から約1年にわたって行われ、2008年2月2日に竣工式を迎え、同時にホームカミングデイが開催されました。今号では、豊田講堂の今をお伝えします。

The Toyoda Auditorium was built in 1960. It has been in renovation process since December 2006. Finally, on February 2nd 2008, renovation process is finished and new Toyoda Auditorium comes up. Here we have articles which reports technical details of renovation process and talks on new Toyoda Auditorium.

祝

本学卒業生の益川敏英博士と小林 誠博士がノーベル物理学賞を受賞されました
本学元助教授の下村 脩博士がノーベル化学賞を受賞されました

豊田講堂のプロフィール

豊田講堂は、1960年（昭和35年）、トヨタ自動車工業株式会社（当時）の寄附により建設されました。鉄筋コンクリート造（講堂部分はシェル構造）の地下1階・地上3階建てで、建築面積3,123.6m²、のべ床面積6,270.2m²、講堂客席1,612席を有しています。豊田講堂の建設は、寄附者であるトヨタ自動車工業株式会社の意向により、楨文彦氏（当時ワシントン大学助教授）が設計を担当し、株式会社竹中工務店が施工を担当しました。建物名称はカタカナ表記の「トヨタ講堂」ではなく、「発明王豊田佐吉翁を記念する意味」を込めて、「豊田講堂」と漢字表記で名付けられました。完成後まもなく、1962年には日本建築学会賞を受賞し、その後1993年には名古屋市に「都市景観重要建築物」に指定され^(注1)、また2003年には、「DOCOMOMO JAPAN 日本近代建築100選」^(注2)にも選定され、日本を代表するモダニズム建築の一つとされました。

このように大変すばらしい建築物である豊田講堂ですが、大規模な改修工事は行われておらず、経年による建物本体の老朽化のみならず、機能的な老朽化も著しい状態となりました。そこで、2006年12月から約1年にわたり、今回の改修が行われ、2008年2月2日に竣工式を迎えることができました。

今回の改修も、トヨタ自動車株式会社をはじめとするトヨタグループ企業10社の寄附により実施しました。1960年の建設当時と同じく、設計を楨文彦氏（株式会社楨総合計画事務所代表取締役）が、施工を株式会社竹中工務店が、それぞれ担当し、トヨタ自動車株式会社プラントエンジニアリング部の監理のもと、進められました。

今回の増築・改修工事では、豊田講堂の再生と機能強化のため、耐震補強等のほか、以下が盛り込まれています。

1. 外観の復元（コンクリートの打放し等）
2. アトリウムの増設（座席スペースの増床等）
3. 講堂の機能改善（座席・空調・音響・照明等）
4. 舞台の機能改善（ステージ・袖舞台・舞台照明・音響等）
5. ギャラリーの整備（展示・パフォーマンススペース等）

改修工事後、ホームカミングデイをはじめ、名古屋大学フォーラム2008等、いくつかの大きなイベントが開催されています。2008年3月の卒業式と4月の入学式は、ともに新しい豊田講堂で実施され、増設されたホワイエ等への座席配置により、卒業生・修了生が一堂に会することができました。また付属中・高等学校の卒業式では、生徒たちが自らの手で舞台袖の機械操作を行い、手作りのプログラムで挙行されました。

老朽化した多くの貴重な近代建築が修復保全の機会を得ずに姿を消していく中、今回の豊田講堂の改修は、次世代への保存継承の切符を手にした事例として、建築界のみならず社会的にも大きな意味を持つものであるといえるでしょう。

注1: 戦災で多くの建物を失ったため歴史的建造物が少ない名古屋市が、都市景観を形成していく上で地域のシンボルとなるような重要建築物を守っていくことを目的として制定されたもの。

注2: 「モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織」DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighbourhoods of the Modern Movement) の日本支部が選定した建築物。

(名大トピックスより抜粋)

改修前写真



前庭・西立面



ホール内部



中庭

改修後写真



前庭・西立面



ホール内部



増築アトリウム

外壁復元技術の紹介

改修工事の概要について

今回の工事は、完成後47年経過した講堂の内外装・設備の改修や、隣接するシンポジオン（設計・施工竹中工務店）とを一体化する増築により、機能性・快適性・安全性・耐久性を向上させ、日本の文化遺産として保存継承することを目的としています。

外壁改修では、「美しい打放し仕上げの質感の復元」という命題に対し、断面補修・保護材着色による表面仕上げ工法に加え、表面劣化の激しい部分には杉本実型枠による「極薄コンクリート打増し工法」を適用した改修を行いました。

外壁復元工法の検討について

既存建物調査の結果、雨がかり部の表面劣化は著しいものの、中性化深さは想定値を下回り、内部は健全であることが確認されました。意匠・耐久性上の観点から復元工法の区分を行い、雨がかり外周部は打増し工法、表面劣化が少ないピロティ、軒天井は補修仕上げ工法を選定しました（表1）。

表1 劣化状況・分類による外壁復元工法の区分

エリア	復元工法	立面図
A 外周部 Ⅱ 雨接、雨が かかる部分	打増し工法 既存躯体の 表面を削っ た上でコン クリートを 打ち増す。	
B ピロティ 軒天井 Ⅱ 雨がかり がない部分 協賛で決定	補修仕上げ (古用工法) 表面の本実 型枠様子を 補修・再生 する。	

極薄コンクリート打増し工法の技術的課題と対策について

既存の独立柱にみられるような、意匠性の高いスリムな躯体形状の維持のためには、最小厚さでコンクリートを打増し工法の確立が課題となりました。実験と検討を重ね、かぶり厚部分を30mm 研り取り、限界最小厚さ55mm で打増し改修することを可能とする新しい技術を開発しました（図1）。



図1 極薄コンクリート打増し工法による改修手順

さらに長期耐久性・構造健全性・施工性・意匠性等に関する様々な技術的課題を抽出し、より高い品質を確保するために、材料・施工面で多くの対策を行いました。

コンクリートのひび割れ抑制・耐久性について

打増し部躯体は、乾燥収縮が完全に終了した既存躯体に拘束されるため、高度なひび割れ抑制対策が必要となります。

今回の工法に用いたコンクリートは、審査機関による個別材料性能評価を経て大臣認定を取得するとともに、乾燥収縮率低減

や耐久性向上の面で目的の性能を確保しています。さらに実部材による付着力試験を実施し、既存躯体との一体性についても確認を行いました。内部にはひび割れ防止メッシュ筋を配しています。

型枠に用いる杉板の木目の転写について

木目の転写性を最大限に向上させるため、今回は石灰上澄水により強制的に杉板のアク（木材に含まれるコンクリートの硬化を阻害する成分）を抜くこととしました。

また、杉板の厚さを僅かに変え、人為的に日違いを作り小幅板の表現を強調するとともに、板表面に浮造り処理（木肌を削り凹凸をつける手法）を施し、表情豊かな美しい杉本実型枠化粧打放し仕上げを実現しています。

外装の維持保全について

美しく復元された外装の維持保全のための対策として、今回新たに各所躯体天端に水切りと水路を設けることにより、雨垂れによる壁面の汚れ防止を図っています（図2）。



図2 外壁の汚れ防止対策

また、暴露試験による表面保護工法の比較の結果、耐汚染性・耐久性・保守（更新）性に優れるフッ素系表面被覆工法を採用しています。北側外壁部分では有機物による黒色の汚れを防止するために、光触媒を上塗り施工しています。

おわりに

今回の改修工事は、竹中工務店名古屋支店に所属する建築学科卒業生の力を結集して取り組みました。また、工事期間中には建築学科に在籍される学生・先生の皆様にも多数ご見学を頂き、母校とのつながりをより一層深くすることができました。



完成写真（南西より撮影）

工事の完成・成功に、ご指導・ご支援・ご協力を頂きましたご関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

竹中工務店名古屋支店 豊田講堂改修工事 関係者一同
 （名古屋大学建築学科卒業生 卒業年度、担当職務）
 青山邦男（73卒、営業）、曾我 裕（83卒、構造）、
 谷村和彦（79卒、技術）、森堅太郎（93卒、技術）、
 長谷 理（82卒、施工）、峰松博之（98卒、施工）

ホームカミングデイに思う

林 義郎 (1959年工学部卒)

今年でホームカミングデイが4回目を迎えるという。第1回目から毎回、出席してきた。3年前、期待に胸を弾ませて久しぶりに母校を訪ねたが、キャンパスは広くどこで何が催されているかもよくわからず、かなり迷った。2回、3回と会を重ねるにしたがって、内容も充実するとともに、案内も分かりやすくなってきた。

今回(第3回)は、豊田講堂の改装披露を兼ねたこともあり、見ごたえのするものが多くあった。その中でも特に、江戸時代末期の科学技術者「田中久重」製作の「弓曳童子」に気を引かれた。童子が一本ずつ矢を取り、弓につがえて、10数m離れた的に向かって、矢を射る。的に向かった時と、矢を打ち終わった時では、顔の表情が変わり、非常に面白い。実に精緻にできている。こういった匠の技が、日本の現代のものづくりに生きているのだろう。つづいて、最先端のトヨタのロボット4台が、トランペット、チューバ、ドラムを巧みに使い、楽しい音楽を聴かせてくれた。

引き続き、改装講堂の銘版、青色ダイオード利用の時計台、陶壁「和多津海」(わだつみ)の除幕式が行われた。さらに、著名なOB・OG3氏と中日新聞の小出コーディネータによる「教育問題」に関するトークセッションが行われ、興味深く拝聴した。

ちなみに第2回のホームカミングデイは、法学部で興味ある講演があったので、聴講した後、工学部の研究室のほうへ足を運んだ。学生とおぼしき若者達が、熱心に実験を行い、見学者に丁寧な説明をしてくれた。何をを行っているかは、大体理解できたが、「何のためにこの実験を行っているのですか」と訊ねると、答えに困る様子であった。目的意識を持って行うほうが更なる進歩につながるかと考え質問したつもりだった。

第4回のホームカミングデイの案内が、名大基金の案内とともに少し前に届いた。メインテーマとして「人と地球環境」が、取り上げられるという。時宜を得たテーマだと思う。この問題に関して私は、理解しているようで中途半端な知識しか持ち合わせていないのが現実だ。ノーベル賞受賞者3人の方からメッセージがいただけるというので、今から楽しみにしている。それ以外にも、興味深そうなイベントがあるので、ぜひ出席したい。

これは大学を挙げての行事で、総長以下幹部の方々あるいは先生方とはお会いできるのは大きな楽しみである。

話題を変えると、国立大学が独立行政法人化されて4年目に入

林 義郎さん

1936年岐阜県生まれ。1959年名大工学部電気学科卒業後、国鉄入社。1984年日本テレコム設立(常務取締役)。1991年東京デジタルホン設立(専務取締役-社長)。2001年J-フォン(会長)(ボーダフォンに社名変更)。2004年退社、以後各種団体・協会の役員・顧問



る。国からの自由を得る代わりに、毎年予算が1%ずつ削減されると聞く。国立大学から私立に近い大学への転換と考えればよいのだろうか。

20年以上前にさかのぼるが国鉄や電電公社、あるいは最近の郵政の民営化問題と似ている。郵政の問題はさておき、結論から言えば国鉄も電電公社も、民営化は成功だったと思う。両社に共通して言えることは、企業の内部の人達が、本気で民営化を成功させようと努力したからだと思う。それに加えて、経営トップに民間人の血が入り活性化された。民営化後、JR東海は、新幹線を高速化し本数増を図り、在来線も名古屋を中心にしたダイヤに改めサービス向上を図った。NTTも市外料金を非常に安くし、サービス向上を図ったと思う。

大学はもちろんサービス業ではない。しかし、彼らの行ったことからヒントが見出せるような気がする。少子化の状況下では、もっと厳しいかもしれない。

大学は知の集団だと思う。多くのアメリカの大学が実施しているように、大学の知恵と民間の資金をもっと積極的に連携し実用化できれば、大学は政府から干渉されない自由な予算を獲得できるのではないだろうか。全学同窓会と各学部同窓会をネットワーク化して更なる活用も考えられる。それから、地域密着、地域貢献も非常に重要であるが、もっと日本全土あるいは、中央に情報発信が必要ではないだろうか。今まで以上に、もっとグローバル化を考える必要もあると思う。今回のオリンピックを見ても、グローバルに対する認識があった選手あるいはチームが、より力を発揮したように思う。

私自身、最後の務めはイギリス系のボーダフォンであり、日本のグローバル化の必要性和海外に日本を理解させる努力の必要性を痛感した。

最後に、名古屋大学、全学同窓会のより良き方向への発展を祈ってやまない。

海外支部の設立 NUAL Overseas Branches Founded

これまでに設立された6つの海外支部に続いて2008年9月にはカンボジア支部が誕生しました。

Founding ceremony of NUAL Cambodian Branch was held on September 2008.

名古屋大学全学同窓会カンボジア支部創設される

去る平成20年9月5日（金）にカンボジアの首都プノンペンのインタコンチネンタルホテルで、名古屋大学全学同窓会のカンボジア支部の設立総会が行われました。これは、カンボジア王立法経大学に名古屋大学日本法教育研究センター開所式に合わせて行ったものです。

設立総会には、本学からは平野総長、佐分理事、杉浦法学研究科長、鯨京センター長はじめセンター開所式関係者が、全学同窓会からは、伊藤義人全学同窓会代表幹事、中野富夫同連携委員会委員長が出席し、カンボジア人の元留学生約20名の方々も含め全体で45名程度でした。

設立総会は、中野連携委員会委員長の司会で日本語とクメール語の通訳（元留学生のピシットさん）を使って行われました。総長の挨拶では、日本法教育研究センターの開所式に合わせて、カンボジア支部が、他の6つの海外支部に引き続いて設立されたことに対する謝意と、今後の名古屋大学の国際交流の拠点の1つとなってほしいとの要望がありました。続いて、代表幹事から、支部設立を豊田会長が喜ばれていることを述べた後、名古屋大学全学同窓会の設立の経緯や理念や電子名簿についての説明があり、今後の支部活動の活発に行ってほしい旨の挨拶をしました。

その後、平野総長から、同窓会のカンボジア支部旗と支部認定書が、カンボジア支部の支部長であるホー・ベン教授に渡されました。その後、ホー支部長から、今回のカンボジア支部設立を同窓生は大変うれしく思っており、今後、名古屋大学全学同窓会の理念に従って、大学や全学同窓会の情報を共有し、名古屋大学の情報発信や国際交流に貢献したいという挨拶がありました。

設立総会終了後には、平野総長とホー支部長を中心として卒業生・修了生が、支部旗を入れて記念撮影を行った後、日本法教育研究センター開所祝賀会に合流して、楽しい交流のひとつをすごしました。



支部旗の授与



設立総会参加者との記念写真

（全学同窓会代表幹事 伊藤義人）

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第7回は、上海支部で幹事長としてご活躍の楊立さんにご寄稿いただきました。また、近い将来、巨大地震の発生が予想されていますが、耐震建築に関する教育・研究でご活躍されている名古屋大学教授の福和伸夫先生にお話をうかがいました。

This column "NUAL People in Action" features our alumni playing active roles in various fields. In this seventh issue, we have an article contributed by Prof. Yang Li. He returned to China as a professor of Shanghai Jiao Tong University in 2003. Also we have an interview to Prof. Nobuo Fukuwa, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University. He is at the forefront of research and education in aseismatic architectures.



楊立さん

1962年8月 中国江苏省无锡市出生
1997年3月 名古屋大学工学研究科，化学工学科卒業，工学博士
1997年4月 日本ガイシ株式会社，中央研究所工作
2003年9月 上海交通大学化学化工学院教授、能源研究院教授、电化学工程与技术研究所副所长

1962年8月 中国江苏省无锡市生まれ
1997年3月 名古屋大学工学研究科化学工学科修了 工学博士
1997年4月 日本ガイシ株式会社中央研究所勤務
2003年9月 上海交通大学化学化工学院教授、エネルギー研究院教授、電化学工程技術研究所副所長

回国已经整整五年了，虽然几乎每年都有机会再到日本各地访问或参加学术会议，但名古屋还是我的最爱，因为那里有我的老师、朋友，有我曾经工作过的地方，更有我的母校——名古屋大学。

我在名大求学的日子里，我的导师竹内宽教授给了我无微不至的关怀，他是我了解和认识日本的第一本“入门书”。在他身上我亲身感受到了日本民族的智慧、严谨、友善和热情，他是一位令我终身难忘的长者。我还要感谢同研究室的高桥胜六教授以及秋田重人、二井晋等师兄弟们，是他们无私的帮助和支持，让我不但顺利完成了学业，而且在日本生活得更加从容、自信。

博士毕业后我进入了 NGK 株式会社，在中央研究所从事研发工作。这是一个从会长到社长都是名大毕业生的公司，身在其中我得到众多先辈的关照与帮助，也感受到了浓浓的名大情结。在那里我申请了有生以来的第一个发明专利，在那里我对研究与开发之间的联系与区别的认识有了实实在在的升华。NGK 这几年的经历是我人生的一大财富。这几年，NGK 在中国的事业蓬勃发展，我也带着感恩的心，尽力回报公司当年对我的培养。

2003 年秋天我举家回国，任上海交通大学教授，建

私は中国に帰国してからすでに5年が経ちました。ほぼ毎年、日本各地への訪問や学術会議に参加する機会がありますが、私にとって名古屋は一番恋しい場所です。名古屋には私の母校である名古屋大学があり、私の先生や友達がいいます。そして、私のかつて働いたところでもあります。

私は名古屋大学で勉強している時に、指導教官であった竹内寛教授から行き届いた指導を受けることができました。竹内先生は、私が日本を知るための「入門書」のような存在でした。私は先生から日本民族の知恵、厳格、友好、情熱をしみじみ感じることができました。先生は私にとって一生忘れ難い指導者です。また、同じ研究室に所属する高橋勝六教授及び秋田重人、二井晋等先輩後輩たちに感謝しなければなりません。皆様の助けや支えにより、私は順調に学業を完成しました。そのおかげで、日本での生活に余裕ができて、自信もてるようになりました。

私は博士課程を修了した後、日本ガイシ株式会社に就職し、中央研究所で研究開発の仕事に従事していました。日本ガイシ株式会社は、私が働いていた当時は会長から社長まで名古屋大学卒業生であり、そこでも、私はたくさんの先輩たちにお世話を賜り、名古屋大学の温もりを肌で感じるこ

立起了属于自己的研究室。目前主持或承担了国家重点基础研究计划（973 计划）、国家高技术研究发展计划（863 计划）、教育部留学回国基金、上海市“浦江人才计划”等项目的研究。主要从事燃料电池、锂离子动力电池（EV/HEV 用リチウムイオン電池）、长寿命铅酸电池（節鉛長寿命電池）以及染料敏化太阳电池（色素増感太陽電池）的关键技术研究，并和日本、德国的大学和企业保持着良好的科研合作关系。已发表论文 100 余篇，包括 AICHE Journal, Industrial & Engineering Chemistry Research, Journal of Power Sources, Electrochemistry Communications, Solar Energy, Electrochimica Acta, Journal of Membrane Science, Separation Science and Technology, Separation and Purification Technology, Journal of Colloid And Interface Science 等著名学术刊物，申请或获得专利近 50 项。

名大上海同窓会の成立让我们时常能在第一时间感受母校日新月异的进步，我作为同窓会の干事，有机会力所能及地为母校效力，是责任也是荣耀，我很珍惜。最后衷心祝愿母校名大成为名副其实的世界一流名校。



研究室の集合写真

とができました。そこで、私は生まれて初めて発明の特許を申請しました。さらに、研究と開発の関連と区別についてよく知ることができました。日本ガイシ株式会社での経験は私の人生の一大財産です。ここ数年、日本ガイシ株式会社は中国での事業が盛んに発展しています。私は感謝の気持ちで、ベストを尽くして私を育ててくれた会社の恩に報いたいと思います。

2003年秋、私は家族を連れて帰国し、上海交通大学の教授になり、自分の研究室を立ち上げました。現在、私は国家重点基礎研究發展計画（937計画）、国家ハイテク技術研究發展計画（863計画）、教育部留学帰国基金、上海市“浦江人材計画”等プロジェクトの研究を主宰し、担当することとなりました。主に、燃料電池、EV/HEV 用リチウムイオン電池、節鉛長寿命電池及び色素増感太陽電池等鍵となる技術研究に携わっています。日本、ドイツの大学や企業とも良好な科学研究連携関係を保っています。私はすでに100余りの論文を発表し、AICHE Journal, Industrial & Engineering Chemistry Research, Journal of Power Sources, Electrochemistry Communications, Solar Energy, Electrochimica Acta, Journal of Membrane Science, Separation Science and Technology, Separation and Purification Technology, Journal of Colloid and Interface Science 等、著名な学術刊行物に掲載されました。また、特許を50項近く申請・獲得しました。

名古屋大学上海同窓会の創立によって、私達はいち早く母校の日進月歩の発展を感じ得ることができるようになりました。同窓会の幹事として、母校のために力の限りを尽くすことは責務であると同時に名誉として大切にしています。最後に母校名古屋大学が名実ともに世界の一流の名門校になることを心からお祈りします。



福和 伸夫さん

1957年名古屋生まれ。1981年名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程前期課程修了後、清水建設（株）に入社し、原子力施設の耐震設計に関する研究業務に従事。1991年名古屋大学工学部建築学科助教授。1997年同先端技術共同研究センター教授。2001年同大学院環境学研究科教授。

中央防災会議専門委員、総合科学技術会議専門委員、地震調査研究推進本部委員をはじめ、文部科学省、国土交通省、気象庁、自治体などの防災関係の委員に携わる。2003年日本建築学会賞（論文）、2007年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、2008年日本建築学会教育賞、地域安全学会技術賞など、各賞を受賞。

近い将来、巨大地震（東南海地震、南海地震）の発生が予想されています。地震による被害をいかに少なくするか、ご自身の研究、教育、さらには活発な産学官連携活動を通じて、その中心となってお活躍である名古屋大学大学院の福和伸夫教授を研究室に訪ね、お話をうかがいました。

インタビュー（Q：広報委員、A：福和先生）

Q 研究テーマの耐震建築に興味を持たれたきっかけは何ですか。

A 清水建設にいたときに原子力発電施設の耐震解析の仕事をしていたことが出発点です。原子力発電所の地震に対する安全性をいかに確保するかということが主な研究テーマでしたが、その他にも、デミング賞取得のためのTQC活動、ネットワークとWSを利用したペーパーレスオフィス環境作りにも携わり、現在の活動に役立っています。最初に耐震の大切さを痛感したのは、米国出張中にロサンゼルス地震（サンフランシスコ、1989年）に遭遇したこと、さらに、阪神淡路大震災（1995年）の甚大な被害を目の当たりにしたことです。

Q 名古屋大学でのご活躍の内容を具体的にお聞かせ下さい。

A 中央防災会議や地震調査委員会の検討により、南海トラフでの地震発生の切迫性が明らかになってきた中で、名古屋地域の防災力を上げることを目指して、活動を続けてきています。今世紀前半に起こる可能性が大きい我が国最大の国難ともいえる巨大地震に対する危機感を全員が持ち、それに対する社会の備えを抜本的に進めなければならないのです。そうしないと、日本という

国家そのものが破綻しかねません。耐震化のための科学的な研究・技術開発に加え、社会の耐震化へ向けての行動を誘導する必要があります。このため、様々な階層に対して、防災意識の啓発や、防災に関わる人材の育成に力を尽くしております。具体的な活動は、地域での防災活動の実践にまで及んでいます。

Q 様々な活動を通じて、どのようなことが大切だと思われませんか。

A 先ずは人づくりです。防災マインドを持った人々を、教育、啓発活動などにより育て、作り上げることですね。そのために、マスコミの力（月1回のマスコミ勉強会）をお借りしたり、土日を中心に様々な方々を相手に講演（年間約150回）をしたりしております。さらに大切なことは、これらの人たちのネットワーク作りです。また、乏しい予算の中でも工夫すれば、防災教育のためのよい教材を作ることができます。現在、私が考案した教育ツールが全国、いや全世界で幅広く使われているのですよ。（インタビュー後、それらの教材を見せていただきました。一部はテレビなどで紹介されており、ご存じの方もいらっしゃると思います。）

このようなことを考えながら、これからも、必ず出会うことが分かっている大地震を前に災害による被害を激減させ、社会を破綻させず、次世代に豊かな社会をバトンタッチするための研究、具体的には、人の教育・啓発・行動心理・協働、建物・地盤の地震時挙動の解明・災害情報データ・社会システム・施策、安価な耐震工法・教育教材、リスクの移転などのヒト・コト・モノ・カネのテーマに総合的に取り組んでいこうと考えています。



地震の揺れ方を説明する教育ツールをお持ちの福和教授



国連世界防災会議での展示



福和教授が開発した教育ツールの数々

Q 予想される巨大地震に対して個人として住宅に対して考えなければならないことは何でしょうか。

A まずは、安全・安心な都市と住宅のあり方をよく考える必要があります。具体的には、住む場所を選ぶ、壊れない・揺れない住宅を建てる、そして家屋内の安全、地震時のライフラインの確保についてチェックすることです。特に言いたいのは、場所選びを慎重にすることです。せっかく壊れない頑丈な家を建てても、その場所が活断層の上だとか、軟弱な地盤の上であれば、安全だとは言えませんね。

Q 町作りとして考えなければならないのはどんなことでしょうか。

A 地震危険度の高い場所からの撤退によるコンパクトシティ作りだと思います。自然の怖さと優しさをバランスよく

考えた町作りということが大切で、目指すのは、自然に対して畏敬の念を持ち、人間の生きる力を取り戻せることができる町作りということでしょうか。

Q 最後に、全学同窓会について、どのようなことを期待されますか。

A 箇条書きにすると、

- ・無理をせず長続きするシステム作り
- ・明るい雰囲気を大切に
- ・会の存在感を強く感じることなく個々人がさりげなく交流できる場
- ・社会に開かれた大学におけるメディエータ役ということになります。

Q 本日は、先生の貴重な時間を割いていただいて、インタビューに応じいただき、大変ありがとうございました。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch



幹事会での議論を終えて、学士会館にて

関東支部は、設立以来、幹事会を頻繁に開催し、大学の幹部や、プロジェクト担当のご出席を得て、大学と幹事との意思疎通を図り、プロジェクトが成功するように努力し、提言しつつ、協力してまいりました。

本年の活動のメインテーマは、下記です。

- ①名古屋大学基金募金活動
- ②東京フォーラム
- ③ホームカミングデイ
- ④全学同窓会寄附講座「キャリア形成論」への講師派遣
- ⑤産学連携活動一名古屋大学協会や名古屋産業科学研究所中部 TLO との連携

名古屋大学基金については、募集活動を大学と一体となって行うべく、平野総長や杉浦副総長や窓口の秘書課にも出席してもらって推進をしてゆくところである。

東京フォーラムについては、本年は第6回になり、一橋記念講堂にて、新しい時代を切り開く人材の育成をテーマに開催される。

課題としては、毎回議論されている主なるものとしては、

- ①会員のネットワークの整備の早急なる推進方策、その為に
- ②東京拠点の組織への組み込み（他の大学並みに）
- ③名称については、略称が「全学同窓会」または「同窓会」では、懇親会と混同される。名古屋大学全学同窓会の設立理念である、在籍職員・卒業生を含めた教育・研究・社会貢献への支援機構であり「社会貢献人材バンク」などの整備の実現の為に「名大会」と略称して、大学での位置づけを明確にしてゆくこと。

である。

幹事会のメンバーも、この所、顔を見てない人も出てきていますが、現在のメンバーは、名古屋大学への熱情（パッション）を、持った人であることに、心より感謝している。

■関東支部事務局長：片岡大造

E-mail : kataoka@tokyo-office.sat.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名大遠州会の第7回総会と第13回同窓会が平成20年6月7日（土）夕刻より浜松グランドホテルにて、来賓として昨年に続いて平野名大総長と伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員80余名が出席して盛大に開催されました。

総会では18、19年度の事業報告と会計報告を行い、役員改選が行われ、乾昇会長（工 S23年）が会長に再選、新たに副会長として庄田武氏（教 S31年）が選任されました。

平野総長はご挨拶の中で、この1年の大学の主なトピックスや、アジア各国での同窓会支部の設立等の活動、研究の国際的取り組み、国の補助金や競争的研究資金の獲得、来年の創立70周年記念事業等、大学の基盤強化に残された任期一杯全力で取り組む意思を表明されました。



遠州会総会

伊藤代表幹事からは、昨年からはじめた名大カード事業、今年のホームカミングデイの計画、支援会費や名大基金への協力要請、次期総長選出までの予定等の報告がありました。

第二部の懇親会は大久保名誉会長の乾杯の音頭で開宴、アトラクションとして浜松医科大学のオーケストラメンバーによる弦楽四重奏の演奏を聴きながら静かに始まりましたが、アルコールが回るにつれてテーブルを移動して大いに会話がはずみ、平野総長も各テーブルを回って交歓され記念写真にも入って頂きま

した。従来からの反省で今回は懇親の時間を十分取る様にし、大いに盛り上がりました。これらの様子は静岡新聞と中日新聞の翌日の朝刊の記事に取り上げられました。

来年度は6月13日（土）に懇親会を主に開催する予定です。名大創立70周年の年でもあり、これに因んだイベントも計画したいと考えています。

■連絡先

E-mail : nualenshu@shizuoka.email.ne.jp (事務局 内山)

関西支部 NUAL Kansai Branch



総会で挨拶する筑支部長

関西支部では、平成20年1月26日（土）15時から、大阪弥生会館において第3回総会を開催しました。当日は100人弱の参加があり、学部、学科、世代を超えた交流となりました。総会では、筑哲男支部長（工・応化33年卒）の開会挨拶に続き、平野真一名古屋大学総長より、日頃からの支援に対する謝意が述べられ、その後、名古屋大学の活動紹介がありました。続いて伊藤義人全学同窓会代表幹事から、海外支部の設立状況や同窓会カード事業など最近の活動報告がありました。

引き続き行われた講演会では、関西支部の会員からの要望もあり、名古屋大学環境学研究所の福和伸夫教授に「大地震を前に過去を振り返り今の危険を知る」という演題でお話しいただきました。講演では、今世紀前半に、東海・東南海・南海地震、首都直下地震の発生が懸念され、関西には、上町断層をはじめとする活断層も多数存在し、その被害想定結果も公表されている中、過去の地震災害を振り返り、現代社会の問題点を点検することで、将来の災害危険度を明確にし、被害軽減の方策について考えていこうというお話があり、大変好評でした。

懇親会は、鳥居事務局長（工・土木 S54修）の進行により進められました。各同窓会の幹事から、活動状況や近況などの報告があり、和気藹々のうちに会を終了しました。

■連絡先

E-mail : Torii_t@mpd.biglobe.ne.jp (鳥居)

国際言語文化研究科 Languages and Cultures

国際言語文化研究科同窓会は昨年（平成19年）10月に発足し、今年（平成20年）10月の18日のホームカミングデイに設立総会を行います。本研究科ではホームカミングデイに「言語文化フォーラム」として、文化人による招待講演と名誉修了生の表彰を行っています。本年度の講演者は法政大学教授の王敏氏で、講演題目は「日中文化からみた環境——人、自然、そして交流の可能性」です。名誉修了生は、「平成19年度博論提出優良」が山本幸一氏（愛知教育大学附属高校）と山田創平氏（厚生労働省）、「平成19年度業績優良」が大津友美氏（東京外国語大学講師）と山辺省太氏（広島経済大学准教授）です。今年と同窓会の設立総会と同時に行われ、言語文化に関する研究科と修了生の学術ネットワークの構築を推進します。



昨年度の言語文化フォーラム

本研究科同窓生の多くは、日本語を含む外国語の高い運用能力を生かして国内外の教育研究機関に従事するほか、企業や公的機関における海外部門などでも活躍しています。従来すでに日本語教育、中国語教育など各分野ごとに学術ネットワークを形成してきましたが、研究科同窓会の発足により、さらなる連携を深めていこうと考えています。今後さらに同窓生相互の交流を深めて、社会連携を視野に入れた研究活動にも寄与していきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

農学部同窓会(セコイア会) Agriculture (Sequoia-kai)

平成20年6月7日（土）名古屋大学農学部大会議室に於いて、農学部第4回卒業生および大学院農学研究科第2回修士卒業生の卒業50周年記念祝賀会を、農学部談話会と共同で開催しました。平成17年に名古屋大学農学部第1期生の卒業50周年を記念して始まったこの祝賀会も3回目を迎え、10名の卒業生と14名の談話会会員、約20名の現職員ならびに同窓会役員が

出席して盛大に行われました。祝賀会では、出席いただいた方々からの近況報告に続き、談話会会員の中村良名誉教授(食品製造化学第二研究室、現 分子生体制御学研究分野)による記念講演「食品とアレルギー」も行われ、互いの旧交を温めておられました。来年も引き続き第5回卒業生ならびに大学院第3回修了生の卒業50周年をお祝いする予定です。



卒業50周年祝賀会での記念撮影

名古屋大学
農学部同窓会
セコイア会



同日、農学部第3講義室に於いて総会を行い、平成19年度の事業・決算報告を行った後、平成20年度役員を選出し、平成20年度事業計画・予算を審議しました。同窓会会員録を5年ぶりに更新することが承認され、来年8月の発行に向けて本年度から住所録調査などの準備に入ることになりました。総会終了後、小西千晶氏(株式会社東芝)による講演「電機メーカーが取り組むバイオマス事業—異分野の技術を融合し、新しい市場に挑戦—」を開催しました。講演終了後、シンポジウム内「ユニバーサルクラブ」にて懇親会を開催し親睦を深めました。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は農学部同窓会ホームページ(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>)に掲載中です。是非ご覧下さい。

■連絡先

E-mail : dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学基金へのご協力をお願い

『名古屋大学基金』は「優れた研究の創造と将来を担う豊かな人間性を持つ勇氣ある知識人の育成を通して社会に貢献する」という本学の基本理念を達成し、さらなる飛躍を図るために、2006年3月、創立70周年事業の一つとして創設されました。

世界に誇る人材を輩出してきた実績

法人化以降、国立大学には自主自律的な運営とともに、これまで以上に個性を打ち出すことが重要となってきています。本学はノーベル賞受賞者をはじめとする世界屈指の研究者や世界企業の経営者など、気がつけば、日本を、世界を動かしている著名な方々を数多く輩出してきました。また、グローバリズムの中で、ようやく日本の大学にも国際化が求められるようになりましたが、本学は既に法学や農学、医学などの分野でアジア地域と交流。海外の人材育成という点でも、先進的な取り組みを続けています。本学が、今後さらに進化していくためには、こうした学問及び人材育成の拠点としての特長をもっと強く発信していくことが必要です。

将来にわたって基盤整備を行うために

これを実現するためには、まず知の創造の源である優れた教育・研究者、そして学生を惹きつけ、存分に力が発揮できる教育・研究環境を整備しなければなりません。また、圧倒的な人材育成の実績を本学のネットワークとしてアピールし、アジアを拠点とする国際的な大学へと本学を位置づけ、発展させていくことも必要でしょう。そのために長期計画を立て、将来にわたる

安定した基盤整備を行うシステムとして、70周年事業と併せ名古屋大学基金を創設しました。本基金は企業・団体・個人の方にご協力をお願いするものです。

アジアの拠点としての新しい名古屋大学へ

ご寄附いただいた基金は、大学の事業に有効活用していきます。事業内容としては、教育・研究に対する助成、キャンパス・施設などの環境整備、学生への奨学金の充実、外国の大学との教育・研究協力、留学生の支援、本学海外事務所の支援、産学連携、社会貢献活動などです。これらの事業によって、本学は一層、優れた人材を育成でき、さらに先端的な研究を世界へ発信できることでしょう。創立70周年を弾みに、名古屋大学基金のもとに結束した意識とネットワークを駆使しながら、アジアの拠点としての整備を進め、新しい名古屋大学を創っていきます。

名古屋大学基金は恒久的なものですが、創立70周年を迎える2009年を第1期の募集期間としております。特段のご協力をお願い申し上げます。

問い合わせ先：名古屋大学基金事務局 (052-789-4993, 5759)

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）への支援を目的として、平成16（2004）年度より、公募型の大学支援事業を開始しました。この事業は年2回募集を行い、選考にあたっては選考委員会を組織し、厳正に行っております。平成19年度後期の採択事業3件について、担当者より報告いただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. This project extends invitation twice a year and the Selection Committee is organized to implement a strict selection of activities. The following are summaries of the three activities selected in the latter period of 2007.

グローバル人材育成ワークショップの開発・実施

申請代表者：堀江未来
(留学生センター 准教授)

名古屋大学で学ぶ外国人留学生や日本人学生にとって、国際社会において指導的な役割を果たす人材として活躍するために必要な総合的能力(特に多文化理解能力、異文化コミュニケーション能力、自分の意見を表現する能力、ディスカッション能力、キャリアプランニング能力等)を身につけることはますます重要になっています。こういった能力育成の一つのきっかけとして、留学生センターと留学生相談室では、平成20年6月28日(土)・29日(日)に一泊二日の合宿セミナー「グローバル・リーダーになろう！ 国際交流コーディネーター養成セミナー」を企画・開催しました。名古屋大学の国際交流をもっと活発にしたいと考える、多国籍の学生が様々な学部・研究科から約20名集まり、非常に内容の濃い2日間を過ごすことができました。

セミナーはまず、立命館アジア太平洋大学の近藤祐一氏と九州大学大学院生の秦貴美恵氏による異文化疑似体験セッションを通じて、日常の異文化体験を見直す作業から始まりました。その後、名古屋大学における国際交流のニーズとリソースについて小グループでブレインストーミングした後、各グループで具体的なイベントの計画を行い発表しました。

参加者からは、「みんなで企画を考えるうちに自分が気づかなかった点をたくさん発見できた」「日常とは違った国際交流の視点から問題発掘・解決について考えたことが新しかった」「定期的に開催してほしい」などの意見が寄せられました。合宿形式だったため、セッション後も文化の違いに関する議論でもりあがり、参加者間の絆を深めることができました。今後も、こういった学生たちがリーダーシップを発揮できる様々な場面をサポートしていきたいと思えます。



名古屋大学柔道部招待 高校生柔道大会

申請代表者：高 木津
(柔道部主将 工学部3年)

名古屋大学全学同窓会による支援を受け、「平成20年名古屋大学柔道部招待高校生柔道大会」を3月23日に実施し、これを無事終えることができました。今回は滝、旭丘、東海、明和、向陽、豊田西、五条、菊里、浜松北の9校が招待に応じて出場し、男女合わせて100名以上が来校しました。大きな事故や問題を起こすことなく大会を進行できたことに加え、とりわけ名古屋大学の食堂を利用した昼食、大会後の現役部員らによる大学紹介は予想していた以上の反響があり、今後同様のイベントを企画するにあたって大きな自信を得ることができました。また、参加した高校生達にとっても、合同練習や記念写真を通して他校の生徒と大いに親交を深めることができた様子で、単なる柔道大会に終わらせないという当初の目標を達成することができました。以上のことから、大学から高校への活発な情報発信という縦の繋がりを強化できたことはもちろん、高校生の間の横の繋がりを確認できたのは大きな成果だったと考えられます。しかし、大会の運営方法など反省すべき点も少なからずあり、これらについては参加校からの指摘を参考にして次回以降に活かしたいと思います。最後になりましたが、今回ご支援いただきました名古屋大学全学同窓会に厚く御礼申し上げます。



より良い街づくり推進のためのすごろく作りワークショップ

申請代表者：西村 健
(すごろく研究所 環境学研究科博士課程前期2年)

すごろく研究所は、多くの人が自らの住む地域に愛着を持ち、より良いまちづくりを進めるための「すごろく作りワークショップ」を行っています。ワークショップを行うことで、街の持つ問題点を把握し実際のまちのハードの整備や、ソフト面での対策につながると考えています。

近年、安全・安心をテーマにしたワークショップが全国の自治会や町内会などで行われています。私たちが提案しているワークショップでは、防犯や防災の観点だけでなく、行きつけのお店やお気に入りのスポットなどといったものも取り上げます。また、ワークショップのまとめとして、すごろくを作り上げます。すごろくという遊びを取り入れることで、より多くの世代が楽しく取り組むことができるようになり、自分たちの町を他の人たちへ紹介するために使うこともできます。

これまでに3度のイベントを開催し、八事、本山、覚王山など名古屋大学近辺の地下鉄駅を中心にすごろく作りワークショップを行ってきました。名古屋大学の学生には周辺で一人暮らしをしている学生も多くいますが、近所に住む人と交流を持っている学生は少ないようです。参加者からは、普段行かないような近所のお店に行くことができた、話す機会のない近所の人達と交流も持ついい機会となったという声がありました。

イベントには、名古屋大学生だけでなく他大学からも多くの参加者が集まり、それぞれの交流の場を作ることでもできました。会場を地域の飲食店に協力していただくなどの工夫も凝らしましたが、周辺住民の方への広報が不足したため、参加者に一般の方が少なかったことは今後改善していくべきだと考えています。



名古屋大学豊田講堂改修竣工式・同竣工記念ホームカミングデイを開催



式典全景

豊田講堂改修竣工式・同竣工記念ホームカミングデイが、2月2日（土）、昨年12月に改修工事を終えた豊田講堂において開催されました。当日は、厳しい寒さにもかかわらず、同窓生、学生のご家族、一般の方等、約2,500名もの参加がありました。

豊田講堂は昭和35年の竣工以来、約半世紀にわたり本学のシンボルとして、入学式・卒業式、学会、シンポジウムなど、教育・研究の場として利用されてきました。しかし、老朽化が著しいため、トヨタ自動車株式会社及びトヨタグループ各社のご寄附により、一昨年12月からほぼ1年をかけて改修・増築工事を行い、工事の完了を記念して、この度改修竣工式を執り行ったものです。また、本学の研究活動等を同窓生、学生のご家族、地域住民の方にご覧いただくため毎年秋に開催している「名古屋大学ホームカミングデイ」を、今年度は同竣工式と併せて開催することにより、関係者だけでなく、より多くの方々に新たな豊田講堂をご覧いただける企画としました。

(名大トピックス No.178より抜粋)

当日のプログラム

- 10:30 豊田講堂改修竣工記念式典
- 11:20 尾陽木偶師九代玉屋庄兵衛氏による「からくり人形実演」
- 12:00 トヨタ・パートナーロボットによるパフォーマンス
- 12:40 陶壁「和多津海」除幕
- 13:00 竣工記念パーティー
- 14:40 トークセッション「日本の教育を考える」

展示

- ・学報の表紙を飾った貴重書
- ・豊田講堂の歴史展
- ・地球温暖化により変貌するヒマラヤの氷河に関する写真展（共催：朝日新聞社）



からくり人形実演



竣工記念パーティー



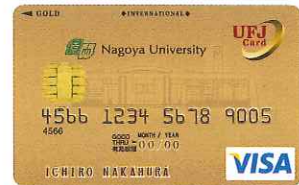
トークセッション「日本の教育を考える」



「名古屋大学カード」から始まる大学支援

年会費永年無料！

加入者は、2300人を超えました。



全学同窓会では、大学支援を強化するため、「名古屋大学カード」事業を行っています。
「名古屋大学カード」は、UFJゴールドカードと同等の機能*を持ち、年会費は永年無料です。

「名古屋大学カード」を利用されますと、その一部が手数料として全学同窓会に還元されます。全学同窓会では、その還元金を大学支援（学生活動支援、就職活動支援、行事支援）の事業に充当し、研究・教育活動に役立ててもらおうとしております。是非、ご加入ください。

* UFJゴールドカードとは一部異なる特典がございます。詳細は申込書をご確認ください。

全学同窓会ホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) から申し込むことができます。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

● 支援会費のお願い Call for contributions

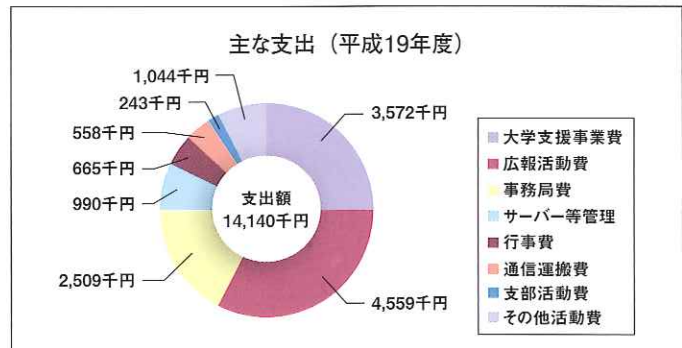
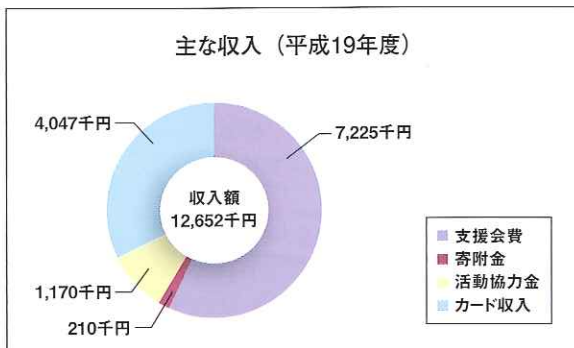
名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられております。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

- 支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

- 支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費、活動協力金等は、全学同窓会の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



● 入会およびインターネット会員登録について NUAL member registration

同窓会ホームページより、会員情報の登録・変更ができます。 <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>

You can register your membership and renew your data through the following web-page

個人情報、社会貢献人材バンクとして全学同窓会および名古屋大学の活動に利用しますが、個人情報は本人の承諾なしに公表されることはありません。最新の会員情報が得られますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

改修なった名古屋大学のシンボル豊田講堂、冒頭に、その工事内容が詳しく説明されています。興味深い内容です。「活躍する会員たち」では、近い将来発生が予想されている巨大地震に対してどのように対処すべきか、ご自分の研究を通じて、まさに産学官連携活動を先頭を立てて実践していらっしゃる、名古屋大学大学院福和伸夫先生へのインタビュー記事を掲載しました。参考になり、考えさせられます。必読です。今年はホームカミングデイが二度開かれます。参加の方々への話題提供となれば幸いです。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.10 平成 20 (2008) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会